

第3学年1組 総合的な学習の時間 学習指導案

平成30年9月25日(火) 第5校時
授業場所 3年1組 教室
在籍児童数 男子10名 女子15名 計25名
指導者 教諭

1 単元名 「バンブーフクトリー！」(第3学年) 4月～3月(70時間)

2 単元目標

- ・身近な素材である竹を題材とし、友だちや様々な人との関わりをとおして、竹や地域に対する自分なりの概念を形成することができる。 【知識及び技能】
- ・情報収集した事柄を基に、新しい概念が形成され、それに基づいてよりよい解決をしようと考え、判断し、自分なりの表現ができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・自己の成長に気付き、先人の技や知恵、自然との関わりをとおして、生活に結び付けて考えるとともに、協働的によりよい解決ができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 児童の実態

学級では、学習に意欲的で新しいことにも興味をもって取り組む児童が多い。2年生までの学習の様子を見ると、生活科の学習においては、まち探検や昔遊びの活動をとおして、様々な人と関わりたいという思いは高まっている。また、収集した情報を絵や図などを用いて伝えることもできている。しかし、自分の考え方に固執してしまうところに課題が見られる。また、話し合い活動では論点から離れた話し合いをしてしまうこともある。友達の意見を受け入れ自分の考えを深めたり、自ら質問したり意見を述べたりするなど、協働的に学ぶことについて課題が見られる。そこで、児童の様々な人と関わりたいという思いを生かして課題を設定し、協働的に追究していく活動を設定していきたいと考える。

4 教材について

3年生の児童にとって、初めての「総合的な学習の時間」の実践である。児童が期待感を抱き、生き生きと活動する姿となるよう学習を計画・展開していった。オリエンテーションでは、学習のねらいや内容、学び方等について説明した。児童は、自分で課題を見つけ、様々な人と関わりながら課題を解決し、自分の言葉で伝えることができるという点に惹かれた様子だった。

地域を巡るまち探検では、田や畑、ショッピングモールのほかに竹林も多くあることに気付いた。そこで今回は、身近に存在する「竹」をテーマとした。その後、音楽の授業では「竹でリコーダーはできるの?」といった質問や「竹を使って流しそうめんをしたいな」といった声があがるようになってきた。また、七夕においては、本校の一角に繁殖している竹を使って、願い事を書いた短冊を教室前に掲示するという縦割り活動も行った。その一方で、竹にはどのような歴史、特性、用途、加工方法があるのか、一体なぜ、地域には多くの竹林が分布しているのか、実際に使われているのかなど知らないことばかりであった。

真竹と呼ばれる種類の竹は、農林業が日本の暮らしの中心であったころは、かごやざる、ほうきや熊手などの生活用品ばかりか建築資材や竹馬、竹とんぼなど遊び道具にまで多様に使われていたようだ。しかし、経済性や効率性が優先される現代では、プラスチック製品や人件費の安いアジア産の輸入品に取って代わられている。竹の消費量が減ったことで、その繁殖力の旺盛さによって竹林が荒れ

果てていくことが問題となっていることが分かった。

そのような背景から、この題材をとおして、竹細工に関する先人の技と知恵を学び、確かな技能や豊かな発想を身に付けたい。そのために、近隣に住む竹細工に詳しい年長者を指導者として招きたい。指導者からの話を聞いたり、その人の持つ伝統技術に触れたりすることで、先人の知恵や考え方について知り、探究の過程を繰り返しながら、竹について自分なりの考えをまとめ、さらに未来へつなぐ「竹」との関わり方などを個々が考えることができるようにしたい。

また、竹林の手入れが環境保全に役立つことや持続可能な素材となりうることも児童に考えさせたい。竹は弾力性に富み、色々な形に加工が可能で成長が早いという特性を持っている。地域の方々にも協力していただきながら、実際に竹を加工し、手作りの楽しさを味わい、自然と共生できる豊かな生活とは何かを考えさせ、持続可能な未来のために児童自ら身近な環境問題として考え、行動できるきっかけにしたい。

さらに、探究の過程における課題解決場面においては、思考ツールを意図的・計画的に活用していきたい。「実社会で活用できる能力」が求められている現代では、「思考力」の育成が大きな課題となっている。本単元では、多種多様な情報を比較する（ベン図）、分類する（座標軸）、関連付ける（ウェビングマップ）といった思考ツールで、児童の考えの可視化を図るとともに、思考の方向付けをしていきたい。本時においては、「フィッシュボーン」を用いることで、課題解決に向けての必要事項とそれに関連した気付きを整理し、複数の要因を関連させることで、多面的に考えられるよう指導していきたい。

5 研究主題との関わり

【研究主題】

「カリキュラム・マネジメントによる学校教育活動の改善に関する研究」
～3つの側面から学校教育活動を改善するための『つなぐ』教育の追究～

上記の研究主題に迫るために仮説と手立てを次のように設定した。

【仮説1】 「主体的・対話的で深い学び」及び「教科横断的」視点を意図的・計画的に学習過程において実践し、授業の質的改善を図れば、子どもたちに「困難な課題に立ち向かい、様々な人々と力を合わせて解決し、よりよい未来を創ろうと考え行動する力」が育成されるであろう。

【仮説1にせまる手立て】

- ① ESD(持続可能な社会の担い手を育む教育)の視点から学びをコーディネートし、問題解決的な学習を展開する。

- ・本単元は、社会科の「まち探検」を行った際、地域には多くの竹が分布していることへの気付きから始まり、自分たちが住んでいる地域のことを課題で設定するに至った。今後も関わりをもっていくことのできる地域素材のよさを活かし、子どもたちとの話し合いをとおして探究的な課題を設定・発展させていきたい。

② 総合的な学習の時間及び生活科の学習指導において、「主体的・対話的・深い学び」の視点及び「教科等の横断的」視点を明らかにする。

- ・探究を意識した学習過程を設定する。(9 活動の流れを参照)
- ・思考ツールを効果的に活用し、児童の思考の可視化を図り、主体的・対話的で深い学びを実践する。本時で活用する「フィッシュボーン」は、主に、結果を生み出す要因を洗い出して、そのどこをどのように変えればよいかなどを検討するときに用いることが効果的とされる。使用方法としては、頭の部分に望ましい結果を、中骨には、その結果に影響すると考えられる要因を、小骨には、それぞれの要因が具体的にどのようなことを含むかを書き込んでいく。その上で、要因をどのように変化させると結果がどのように変わるのか、あるいは、よりよい結果を得るためには要因のどこをどのように変えればよいのかを検討する。「理由付ける」「構造化」「見通す」などと関係が深い。

【仮説2】 カリキュラム・マネジメントの3つの側面を意図的・計画的教育課程に位置づけ、組織的に実践すれば、より質の高い教育活動に改善されるであろう。

- ① 児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく。
- ・総合的な学習の時間を中心として教科等との関連を重視する単元配列表（ESD カレンダー）を作成し、教科等横断的な視点を意識して教育活動にあたる。(13 ESD カレンダーを参照)

6 指導計画作成に当たって留意すべき事項

	(1)「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点	(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点	(3)「教科等横断的」な視点	(4)「社会に関わられた教育課程」の視点	(5)「道徳教育の充実」の視点
留意すべき事項	障害等のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。	探究の過程 (①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現)を一層質的に高めていく。	他教科等及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、学習や生活において生かし、総合的に働くようにする。	学校の教育活動全体で資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを行う。(支援者・保護者との連携・共有)	児童が自己の生き方を考えることにつながる。

7 単元に関する具体の評価規準

観点	ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 学びに向かう力、人間性等
評価規準	①先人からのアドバイス、図書資料などを生かして、試行錯誤しながら自分なりに工夫し活動を行うことができる。	①体験をとおして得た情報や他者からの情報を基にして自ら課題を設定できる。 ②収集した情報について比較、分類、関連付け等を用いて整理・分析することができる。 ③根拠を明らかにしてまとめ、自分なりの表現できる。	①「自分にできることは何か」という視点をもって活動したり、自分の考えや思いを振り返り、今後の自分について考えたりすることができる。 ②地域への愛着を深め、様々な人々と協働的に今後も進んで関わるることができる。

8 単元の指導計画・評価計画 (70 時間扱い) ※「課題」:課題の設定 「情報」:情報の収集 「整理」:整理・分析 「表現」:まとめ・表現

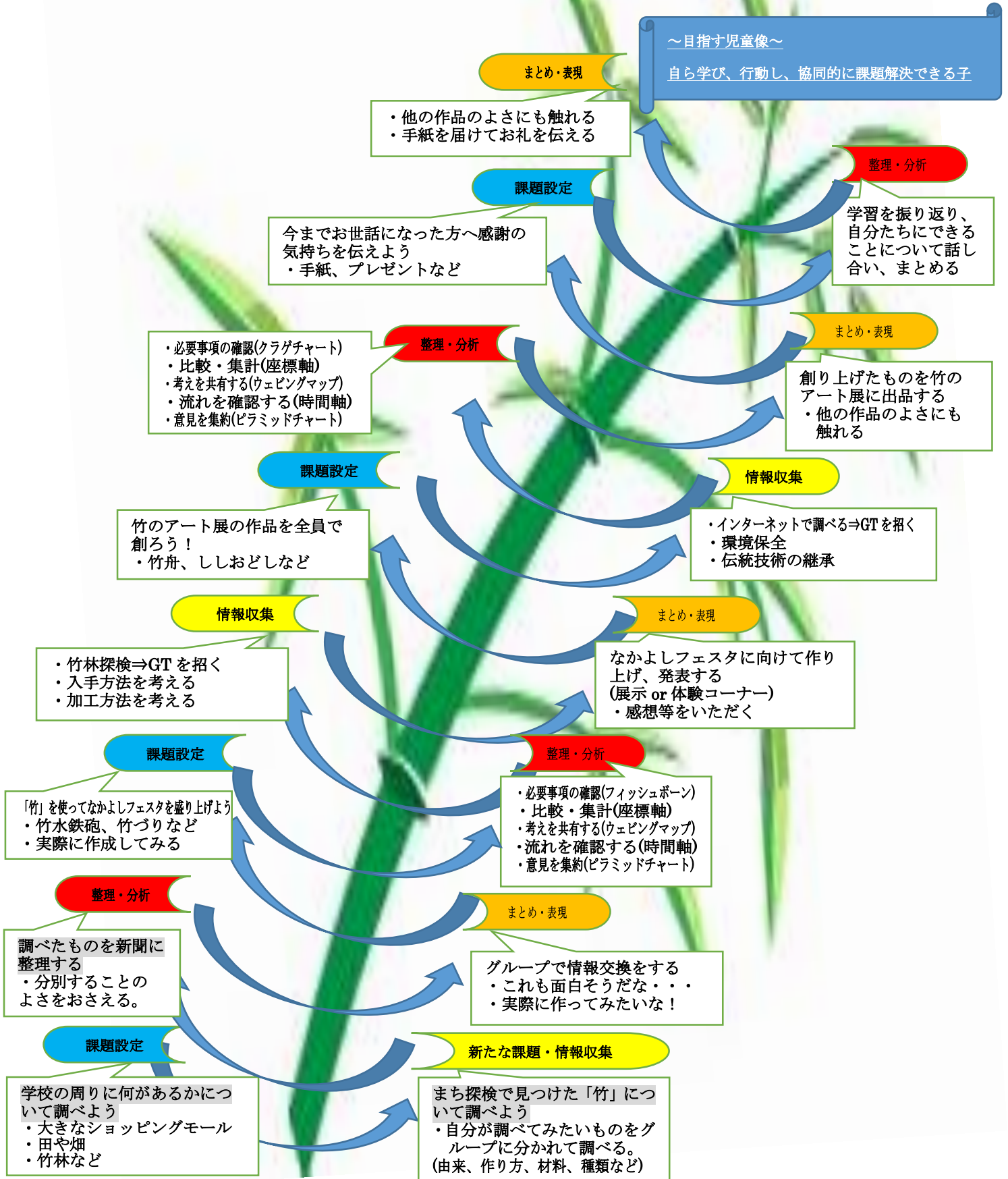
探究の過程	○学習活動 ・ 予想される児童の思考	・指導上の留意点【留意すべき事項】 〈思考ツール〉	評価規準 【評価方法】	時数
	○オリエンテーション ・「ペガサスタイムって？」 ・なんだかワクワクしてきたな・・・	・学習のねらいや内容、学習の進め方について児童が期待感を抱くような話を簡潔に行う。5(2) ・自分で決めて自分で活動する学習であることを伝える。5(2)		1
課題	○栗橋西小学校と学校の周りには何があるか話し合う。 ・1・2年生の時も学校探検やまち探検をしたから、知っている。 ・行ったことはないが聞いたことがある。 <u>実際に自分の目で確かめよう</u>	・課題を見いだすための学習であることを意識する。5(2) ・個々の持つ情報を基に話し合いから自分の認知度を考えさせ、疑問を生じさせる。5(3)	ア① イ① 【記録・発言】	2
情報	○まち探検を行い、地域にはどんなものがあるのか実際に調べる。 ・大きなショッピングモールがある。 ・お寺や神社もある。	・事前にまち探検のルートを決めるために、調査を行う。5(3) ・ワークシートを用意し、目印となる道路や建造物などを地図上で把握できるようにする。5(3)	イ① 【記録・行動】	3 4 5
整理	○まち探検で気付いたことをグループで話し合う。 ・初めて行った場所があったな。 ○話し合ったことを基に、ウェビングマップを作成し、地域の特色を共有する。 ・田や畑、竹林などがたくさんあるね。	・ワークシート上にはない田や畑、竹林にも目を向けさせる5(3) ・まち探検を振り返り、実際に見たもの、感じたこと、考えたことを共有し、可視化する。5(2) 〈ウェビングマップ〉	イ②【発言】	6
表現	○白地図を拡大したものにまとめる。 ・まだまだ知らないものが地域にはたくさんあるな・・・	・地図にまとめることで大まかな場所を確認できるようにする。5(3) ・社会の単元と結びつけて学習を深める。5(3)	イ②【記録】 イ③【記録】	7 8 9 10

課題	まち探検で見つけたもの「竹」について調べよう	・自分たちの学校やまちを見つめ直し、学習の中心となることを押さえる。5(2)		11
情報	○「竹」についてイメージを広げる。 ・竹林、竹とんぼ、竹馬など	・個人→グループで考えさせる。5(1) 〈ウェビングマップ〉	ア① イ① 【記録・発言】	12
整理	○ウェビングマップの中から調べてみたいものを話し合う。 ・竹鉄砲、かぐや姫、竹船、竹笛、鹿威し、流しそうめん、七夕など	・全体の活動に広げていく。5(3) 〈表〉	イ② 【発言】	13
情報	○自分が調べてみたいものをグループに分かれて調べる。 ・由来、作り方、材料、種類など（項目）	・調べてみたいものを最優先にグループ分けをする 5(1) 5(2)	イ② 【発言】	14
整理	○調べたものを新聞にまとめる。 ・分かりやすく伝えよう。	・自分が調べているもの以外についても情報収集をするようにアドバイスをする。5(2)		15
表現	○グループで情報交換をする。 ・これも面白そうだな。 ・実際に作ってみたいな。	・項目ごとに分別すると伝わりやすいことをおさえる。5(2)	イ② 【記録】	17
		・異なる課題の児童が互いの考えに刺激を与えながら交流し、追究へと向かわせる。5(3)	イ③ ウ① 【発言・記録】	18 19 20
課題	○なかよしフェスタに向けて竹を使って発表できないか話し合う。 学校で作れそうな竹細工を考えよう	・多くの情報を得ながら、課題追究できるように、教室内に図書コーナーを設置する。5(3)	ア① イ① 【記録・発言】	21
情報	○グループで意見を出し合う。 ・竹とんぼ、竹鉄砲、竹釣りなど	・各グループで作りたいものを決定させる。5(2) 〈K J法〉	ウ① 【発言】	
整理	○実現可能なか全体で話し合い、作成するものを決定する。 ・安全にできるのか ・作成に要する時間など	・グループの意見を比較し、まとめる。5(2) 〈座標軸〉	イ② 【発言・記録】	22
表現	○動画を視聴し、作成する。 ・結構難しそう・・・ ・道具の扱い方には気を付けなくちゃ ・作ってみると意外と簡単だな ○実際に遊んでみる。 ○GTを招き、作り方を学ぶ。 ○体験から感じたことを振り返る。	・材料を用意する。(竹、スポンジ、輪ゴム、布ガーゼ、爪楊枝、のこぎり、きり、紙ヤスリ) 5(1)	ア① 【発言・行動・記録】	23 24
		・のこぎりやきりの取り扱い方に配慮する。5(1) 5(2)	イ③ 【記録】	25
		・作成が困難であった場合、GTの協力を要請する。5(4)	ア① イ① 【発言・行動・記録】	26
		・振り返りシートを学習コーナーに掲示する。5(2)	ウ① 【発言・記録】	27
課題	なかよしフェスタに向けてさらに楽しんでもらえるものを考えよう	小単元の課題：「竹」を使ってなかよしフェスタを盛り上げよう！！		28
情報	○グループで意見を出し合う。	・各グループで作りたいものを決定	ア① イ①	

整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 剣玉、竹馬など ○ 実現可能なのか全体で話し合い、作成するものを決定する。 ・ 安全にできるのか ・ 作成に要する時間など 	<ul style="list-style-type: none"> させる。5(2) 〈K J法〉 ・ グループの意見を比較し、まとめる。5(2) 〈座標軸〉 	<ul style="list-style-type: none"> 【記録・発言】 イ② 【発言・記録】 	29
課題	一から作るには、どうしたらよいか考えよう			30
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで意見を出し合う。 ・ 必要な材料の調達など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループで必要な事項を確認させる。5(2) (フィッシュボーン) 	<ul style="list-style-type: none"> ア① イ① 【記録・発言】 	31
整理(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要事項を基に、バンブースライダーを作るために必要なものを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の意見を集約、比較し、まとめる。5(2) 〈短冊〉 	<ul style="list-style-type: none"> イ② 【発言・記録】 	32
課題	竹林探検をしよう			33
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ 竹林に行く計画を立てる。 ・ 実際にどんな竹があるのかを知りたい。 ○ 竹林探検を行い、どこにどんな竹があるのか実際に調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に竹林探検のルートを決めるために、調査を行う。5(4) ・ 道路や建造物などを地図上で把握できるようにする。5(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ア① イ① 【記録・発言】 	34
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 竹林探検で気付いたことをグループでまとめる。 ・ どうやって竹を入手しようか。 ・ 入手できたら、どのように運ぼうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に見たもの、感じたこと、考えたことを共有し、可視化する。5(2) 〈ウェビングマップ〉 ・ 地図にまとめ、竹林の場所を確認できるようにする。5(3) 	<ul style="list-style-type: none"> イ② 【記録】 	36
課題	竹の入手方法を考えよう			38
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所は分かったけど、許可も必要だよ ・ 伐採や運び出しはどうするのだろう 			39
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○ アポイントメント、伐採、運び出し方法についてグループに分かれて調べる。 			
課題	加工方法を考えよう			41
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ GT を招き、油抜き、竹びき、のこぎり、なた、小刀の使い方、竹の曲げ方等、直接伝統技術を教えてもらい作り始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前調査(住所、連絡先など)を行う。5(4) ・ 入手方法の流れを全体で確認する。5(2) 〈時間軸〉 ・ 情報収集や情報交換、GT との体験をとおして実際に作っていく。5(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ア① イ① 【発言・行動・記録】 	42
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作ってみて感じたこと、気付いたことやなかよしフェスタでどのように発表していくかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラスの意見を集約していく。5(2) 〈ピラミッドチャート〉 ・ 場所の確保や発表方法など時程を考慮する。5(2) 5(4) 	<ul style="list-style-type: none"> イ② 【記録】 	45
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ バンブーフクトリー展示会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改善点に目を向けさせる。5(2) 	<ul style="list-style-type: none"> イ③ 【記録】 	46
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表会の成果をまとめる。 			
課題	○ もっと竹のことをみんなに発信していけないか考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットの情報から竹の可能性をさらに広めるアイディア 	<ul style="list-style-type: none"> ア① イ① 【記録・発言】 	47

情報	竹のアートについて調べよう ○宮代町で催される「竹のアート展」についてインターネットを用いて調べる。	を考えさせる。5(2) ・環境保全の難しさや重要性を理解し、「自然をいかしながら持続可能な暮らしを送るためにはどのようにしたらよいか」を考えさせる。5(3)	ウ①【記録】	48
情報	○OGT を招き、竹のアートを催したきっかけや環境保全や伝統技術の継承について教えてもらう。		ア① イ① 【発言・行動・記録】	49 50
整理	○「竹のアート展」を調べてみて、自分たちが出品できそうなアイデアを出し合う。	・考えたことを共有し、可視化する。5(2)〈ウェビングマップ〉 ・クラスの意見を集約していく。5(2)〈ピラミッドチャート〉	イ②【記録】	51 52
課題	学校で作れそうなものを考えよう			53
情報	○どのように作成していくかグループで話し合う。	・各グループで必要な事項を確認させる。5(2)〈クラゲチャート〉	イ① ウ② 【発言・記録】	54
整理	○実現可能なのか、どうすれば実現できるか全体で話し合いまとめる。	・児童の意見を比較し、まとめる。5(2)〈座標軸〉	イ②【記録】	
課題	○実際に作り始める。	・今までお世話になった GT を始め、地域の方にも協力していただけないか確認する。5(4)	ア① イ① 【発言・行動・記録】	55 56 57
情報	バンブーフクトリーの集大成として作品を完成させよう ○OGT や地域の方に教えていただいた技法を基に、新たな技法がないか模索する。	小単元の新たな課題：「竹のアート展」の作品を全員で創りあげよう！	イ①【行動】	58 59
整理	○効率的な進め方を導き出す。	・技法を取捨選択する。5(2)〈ベン図〉	イ②【記録】	60
表現	○「竹のアート展」に出品し、他の作品のよさにも触れる。	課題解決の方法：〇〇を作って、クラスの絆を深めよう！！		61
課題	○今までお世話になった人へ学習の成果と感謝の気持ちを伝えよう。	・学習の軌跡を自分なりに表現する学習であることを意識する。5(2)	イ① ウ② 【発言・行動・記録】	63 64
	感謝の気持ちを伝える方法を考えよう			65 66
整理	○学習を振り返り、自分たちにできることについて話し合いまとめる。	・クラスの意見としてまとめる。5(2) 5(3)	イ②【記録】	67 68
表現	○お礼の手紙を書く ○手紙を届けて、お礼を伝える。	〈サンライズ〉→オリジナル ・これからの学習や生活に生かすことができるようにする。5(3) 5(4) 5(5)	ウ①【記録】 ウ②【行動】	69 70

9 活動の流れ

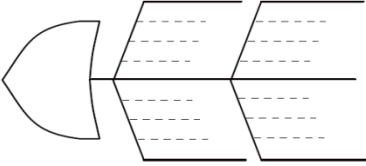


~児童の実態~
 ・様々な人と関わりたいという思いが高まっている。
 ・自分の考え方に固執してしまい、自分の考えを様々な方法を用いて表現することには課題が見られる
 ・友達の意見を受け入れ自分の考えを深めたり、自ら質問したり意見を述べたりするなど、協同的に学ぶことについて課題が見られる。

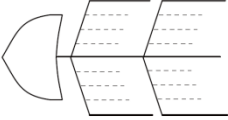
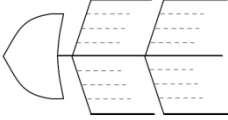

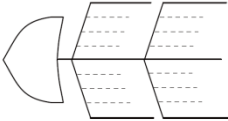
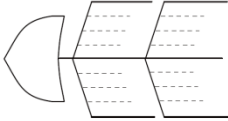
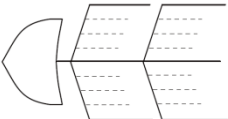
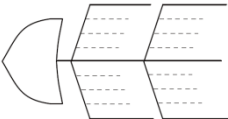
10 本時の学習指導(32 / 70 時)

(1) 目標 必要事項を基に整理・分析を行ない、バンブースライダー（流しそうめん）を作るために必要なことを考えることができる。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の思考	・指導上の留意点 〈思考ツール〉 * 支援や配慮 ☆ 評価規準【評価方法】	準備	時間
<p>1 グループ活動において、前時までに作成したフィッシュボーンを確認する。</p>  <p>2 前時の振り返りを確認する。 ・必要な材料の調達や作成に要する時間など意見を出し合った。</p> <p>3 本時の課題を確認する。</p>	<p>・作成のために必要な事項について各グループでカテゴリー・付箋を基に確認させる。〈フィッシュボーン〉</p> <p>・フィッシュボーンを見て類似・相違を比較できるよう促す。</p> <p>* 情報を得ながら、課題を追究できるよう教室内に図書コーナーを設置する。</p> <p>・教室の掲示物や今までの資料などを活用して、これまでの活動を振り返らせる。</p>	<p>フィッシュボーン</p> <p>振り返りカード一覧表</p>	<p>5</p> <p>5</p>
<p>バンブースライダーに何がひつようかみんなで考えよう</p>			
<p>4 実現するための手順についてフィッシュボーンを基に全体で話し合いまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">竹のある場所を確認する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">アポイントをとる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">竹を加工するなど</div>	<p>・課題解決に向けて意見を比較し、まとめる。</p> <p>〈短冊〉</p> <p>☆ 収集した情報について、比較、分類等の思考を駆使して整理・分析することができる。イ②【発言・記録】</p>	<p>短冊</p>	<p>2 5</p>
<p>5 振り返りカードに記入し、発表する。</p>	<p>・意図的に指名をして、振り返りカードの記入内容を発表させる。</p>	<p>振り返りカード</p>	<p>8</p>
<p>6 本時の活動を振り返り、次時への見通しを持つ。</p>	<p>・板書を活用して、本時の活動を振り返り、次時の見通しをもたせる。</p>		<p>2</p>

1 1 板書計画

バンブーフクトリー！	めあて	バンブースライダーに何がひつようかみんなで考えよう
前時まで・・・ ・グループでフィッシュボーンを完成させた	手順	まとめ
 	竹のある場所を確認する	まずは〇〇に取り組もう！！  竹林探検をしよう！！
 	アポイントをとる	
 	材料が必要	
	道具が必要	
	竹を加工する	

1 2 振り返りシート

月	日	3年1組	番	名前_____
MEMO				
じゅぎょうの中であなたにとってひつようなことだけを書きのこそう				
今日の学習をふりかえて・・・				
じゅぎょうはワクワクしましたか？	すごくした まあまあした ふつう あまりしない しなかった			
つぎに自分のやることが・・・	分かる だいたい分かる よく分からない わからない			

1 5 参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」 文部科学省 平成30年2月 株式会社東洋館出版社
- ・「埼玉県小学校教育課程編成要領」 埼玉県教育委員会 平成30年3月 関東図書株式会社
- ・「埼玉県小学校教育課程指導資料」 埼玉県教育委員会 平成22年3月 関東図書株式会社
- ・「埼玉県小学校教育課程評価資料」 埼玉県教育委員会 平成23年3月 関東図書株式会社
- ・「埼玉県小学校教育課程指導実践事例集」 埼玉県教育委員会 平成24年3月 関東図書株式会社
- ・「ESD (持続可能な開発のための教育) 推進の手引 (改訂)」 文部科学省国際統括官付 平成28年3月 日本ユネスコ国内委員会
- ・「考えるってこういうことか! 「思考ツール」の授業」 田村 学・黒上 晴夫 平成25年8月 小学館